令 和 ３ 年 ９ 月 ９ 日
福井県安全環境部自然環境課

令和３年度堅果類の豊凶状況および出没予測について

１　堅果類の豊凶状況

◯高標高域（奥山）

・ブ　　ナ：県全体の作柄は並作（県内の９割の調査木において着果）
地点ごとの作柄は、不作８地点、並作４地点、凶作の地点はなかった
作柄に地域差が見られ、特に嶺南地域と丹南地域で良好

・ミズナラ：県全体の作柄は不作（県内の８割の調査木において着果）
地点ごとの作柄は、地域差はなくすべて不作

◯低標高域（里山）

・コ ナ ラ：県全体の作柄は不作（県内の９割の調査木において着果）
地点ごとの作柄は、凶作の地点はなく、豊作が１地点あった

○県全体の作柄の年次比較　　†県全体の調査木における密に着果した割合（%）

樹 種	R03	R02※	R01※	H30	H29	H28	H27	H26※	H25	H24	H23	H22※	年次比較
ブナ	並	凶	凶	不	不	凶	不	凶	並	凶	豊	凶	H23>R03>H25>H27>H29>H30
†（%）	28	0	0	12	16	1	17	0	25	0	84	0	>**R01**>H28>**R02**=**H26**=H24=**H22**
ミズナラ	不	不	凶	並	不	並	不	不	不	並	並	不	H30>H28>H24>H23>H29>H25>
†（%）	5	6	1	41	22	29	7	4	14	28	26	2	>H27>**R02**>R03>**H26**>**H22**>**R01**
コナラ	不	不	不	不	並	不	不	不	不	並	並	不	H30>H29>H24>H23>R03=H25
†（%）	17	5	6	33	32	13	8	10	17	32	30	7	>H28>**H26**>H27>**H22**>**R01**>**R02**

実り量（作柄）の多い順に、豊：豊作＞並：並作＞不：不作＞凶：凶作

年次比較は、「密に着果した割合」の%順に記載。　※ H22、H26、R01、R02 は、秋にクマが大量出没した年

２　夏場の出没状況

・今年の６月～８月の出没件数は、大量出没年となった令和元年、令和２年よりも少なく、大量出没とはならなかった平成 30 年と同傾向となった。

３　秋以降の出没予測に関する現時点での総合的判断

・本年度は、堅果類に一定の着果があり、過去に大量出没が生じた「ブナとミズナラの両樹種がそろって着果不良の状況」にはない。また、６月～８月の出没件数も大量出没があった令和元年、令和２年よりも少ない。このため、令和元年、令和２年のような、県内全域での大量出没に至る可能性は低いと判断される。

・しかし、令和元年の、令和２年度の大量出没を契機に、クマの生息範囲が拡大し、集落周辺の里山に恒常的に生息しているクマもいると考えられる。

・これらのクマが餌を求めて、集落に出没することが考えられ、警戒が必要。